

今年秋完成予定のサッカー場に芝苗を植え付け みんなで天然芝サッカー場をつくろう



■天然芝の植え付けを実施

7月7日(日) 町が震災からの復興のシンボルの1つとして整備を進めている総合運動公園内のサッカー場に天然芝を植え付けるイベントが開催されました。町と日本サッカー協会が主催し、サッカークラブの親子連れなど約600人が作業に汗を流しました。

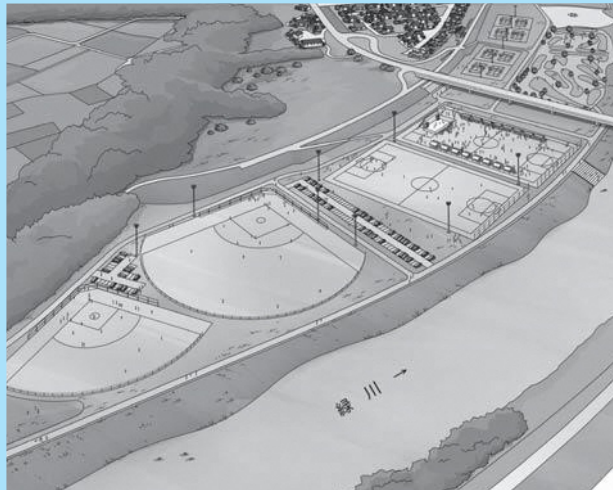
参加者は、50センチ間隔で土を掘り起こし、約4万株用意された芝の苗を一つ一つ丁寧に植え付け。芝は約10週間で生長し、ピッチ全面が覆われる見込みです。

■芝生化の方法

ポットの中で30日間ほど育てた芝生(ティフトン芝)を田植えの要領で、サッカー場に50センチ間隔で植えるもので、2カ月ほどで生育してその間隔が埋まり、一面緑の芝生になります。

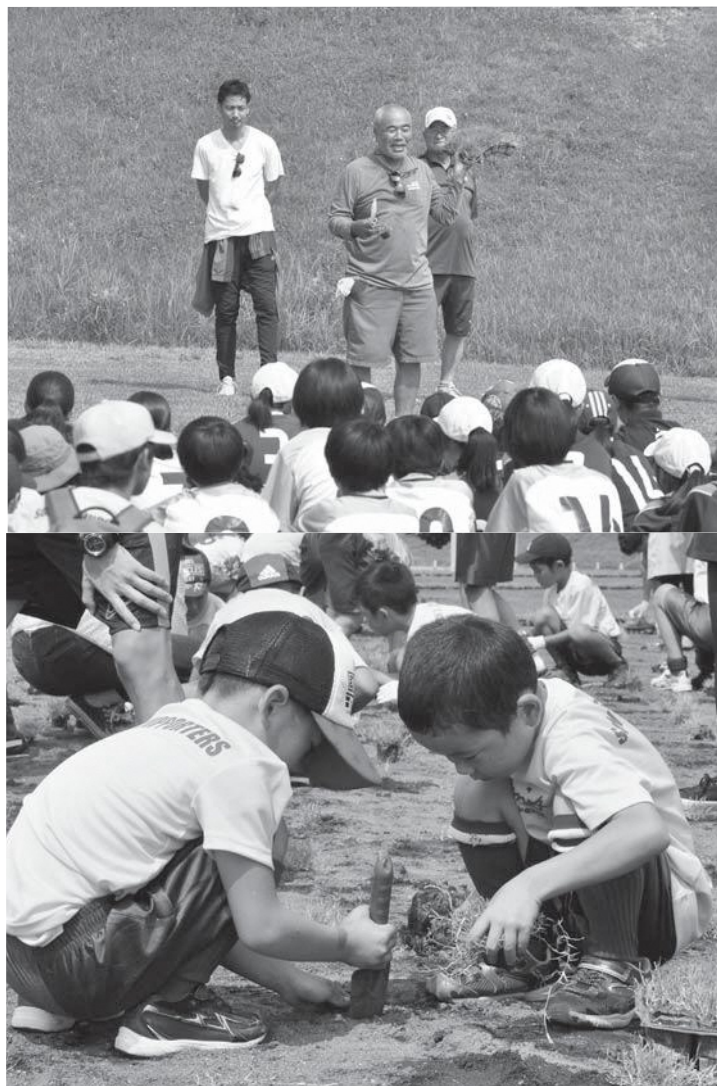
2023年 オープンを目指して 総合運動公園を整備中

▶安津橋の上流と下流側に整備中の総合運動公園イメージ



町では、町民の憩いの場、また熊本都市圏の地域間交流の場として、緑川左岸に整備したグラウンド・ゴルフ場と一体となり、安津橋上流および下流側の計画面積約100,000平方メートルに、サッカー場（2面）、テニスコート（8面）、野球場、ソフトボール場、ランニングコースなどを整備する計画です。

サッカー場は、人工芝サッカー場1面と、（公財）日本サッカー協会から寄贈いただく天然芝サッカー場1面の合計2面を整備。そのほかの施設についても順次整備し、テニスコート8面を2020年に、野球場を2021年に、ソフトボール場を2022年にオープンする予定となっています。そして2023年にはランニングコースがオープンし、全施設の供用開始となる予定です。



井上 光晴さん
（甲佐中3年・緑町区）

サッカー部の仲間 と一緒に参加

暑かったけど、みんなと一緒に天然芝を植えられて楽しかったです。完成した天然芝のピッチでプレーしたいです。

ティフトン芝は生長が早いので、大掛かりな工事をすることなくグラウンドを芝生化できます。

■（公財）日本サッカー協会が 天然芝サッカー場1面を寄贈

町では、震災からの復興シンボルの1つとして、町民が集いスポーツを楽しむ総合運動公園の整備を進めています。同事業は、甲佐地区かわまちづくり事業として国土交通省と連携して実施し、緑川左岸の安津橋上流および下流側に整備します。

サッカー場は、人工芝サッカー場1面と、（公財）日本サッカー協会から寄贈いただく天然芝サッカー場1面の合計2面を整備。

天然芝サッカー場の寄贈については、アジアサッカー連盟からいただいた熊本地震復興支援金（30万USD）を活用して実施されます。夜間の利用もできるように照明設備を備え、今年秋の完成を予定しています。

▶お問い合わせ先

町地域振興課

096・234・1154

（内線236）